

ウエスタン・グローバル 債券ファンド（SMA専用）

追加型投信／海外／債券

交付運用報告書

第6期(決算日2024年10月9日)

作成対象期間(2023年10月11日～2024年10月9日)

第6期末(2024年10月9日)	
基準価額	14,232円
純資産総額	14百万円
第6期	
騰落率	11.7%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は四捨五入して表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
ホームページの「ファンド情報・基準価額一覧」等から当ファンドを選択することにより、運用報告書(全体版)を閲覧及びダウンロードすることができます。

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ウエスタン・グローバル債券ファンド(SMA専用)」は、2024年10月9日に第6期の決算を行いました。

当ファンドは、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

お問い合わせ先

TEL 03-5219-5947

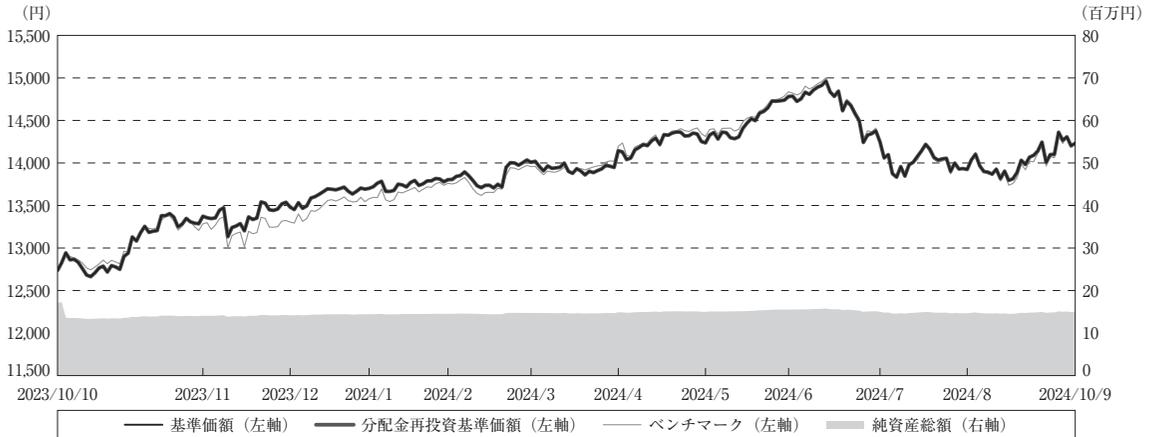
(受付時間 営業日の9:00～17:00)

<https://www.franklintempleton.co.jp>

運用経過

期中の基準価額等の推移

（2023年10月11日～2024年10月9日）



期 首：12,736円

期 末：14,232円（既払分配金(税込み)：0円）

騰落率： 11.7%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首（2023年10月10日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) ベンチマークは、ブルームバーグ・グローバル総合（日本円除く）インデックス（円換算ベース）です。

○基準価額の主な変動要因

当期の当ファンドのパフォーマンス（騰落率）はプラスとなりました。

公社債利金を手堅く確保し、公社債損益がプラスとなりました。また、為替損益もプラスとなりました。

1万口当たりの費用明細

（2023年10月11日～2024年10月9日）

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 64	% 0.461	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率
（投信会社）	(41)	(0.296)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(18)	(0.132)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(5)	(0.033)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	1	0.009	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数
（先物・オプション）	(1)	(0.009)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用	9	0.065	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
（保管費用）	(2)	(0.016)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(3)	(0.024)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（印刷等費用）	(3)	(0.025)	印刷等費用は、印刷業者等に支払う法定書類の作成、印刷、交付および届出に係る費用
（その他1）	(0)	(0.000)	NDFにかかわる証拠金
（その他2）	(0)	(0.000)	金銭信託預入に係る手数料等
合計	74	0.535	
期中の平均基準価額は、13,871円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

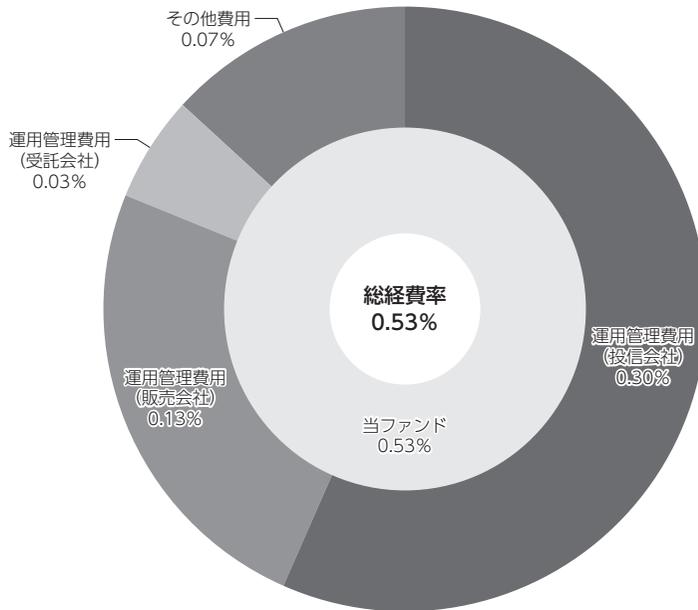
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)**○総経費率**

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.53%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2019年10月9日～2024年10月9日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2019年10月9日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2019年10月9日 決算日	2020年10月9日 決算日	2021年10月11日 決算日	2022年10月11日 決算日	2023年10月10日 決算日	2024年10月9日 決算日
基準価額 (円)	10,471	11,217	12,048	12,004	12,736	14,232
期間分配金合計(税込み) (円)	-	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	-	7.1	7.4	△ 0.4	6.1	11.7
ベンチマーク騰落率 (%)	-	5.7	5.4	3.6	5.5	11.8
純資産総額 (百万円)	231	248	331	366	17	14

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) ベンチマークは、ブルームバーグ・グローバル総合（日本円除く）インデックス（円換算ベース）です。

投資環境

（2023年10月11日～2024年10月9日）

当期の米国債券市場は、利回りが低下（価格は上昇）しました。

期の前半は、米連邦準備制度理事会（FRB）の金融引き締めが長期化するとの見方が強まったことなどから、利回りの上昇（価格は下落）が先行しました。しかしその後は、米連邦公開市場委員会（FOMC）を経て、利上げサイクルの終了と2024年の複数回の利下げへの期待が強まり、利回りは低下しました。

期の半ばは、底堅い米国経済統計などを背景にFRBが利下げを急がないとの見方が強まったことなどから、利回りは上昇しました。その後、米国雇用統計の雇用者数や消費者物価指数（CPI）の伸びが鈍化すると、FRBの利下げ期待が高まり、利回りは低下に転じました。

期の後半は、2024年9月のFOMCでの利下げ開始が意識されるなか、FOMCに向けて利回りは低下しました。9月のFOMCでは市場予想通り大幅な利下げが決定されたものの、パウエルFRB議長の発言がタカ派的との見方から、FOMC後には利回りが上昇しました。その後発表された米国雇用統計では米国の労働市場の底堅さが示され、FRBの大幅な追加利下げ期待が後退したため、利回りは一段と上昇しました。

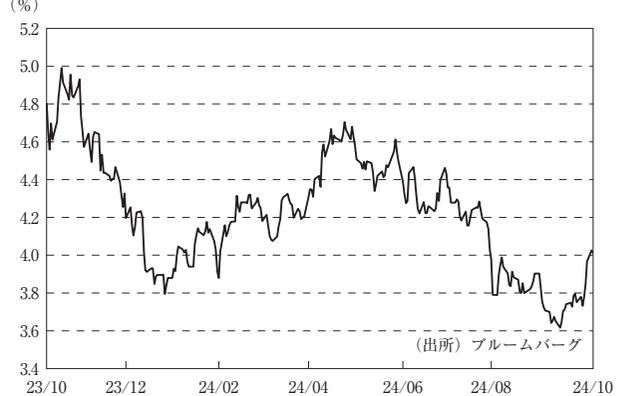
当期の欧州債券市場は、利回りが低下しました。

期の前半は、FRBやイングランド銀行（英中央銀行、BOE）が政策金利を据え置き、各国中央銀行の利上げ局面が終わりに近づいているとの見方が市場で強まったことで、ドイツの利回りは低下しました。

期の半ばは、FRBの利下げ先送り観測が強まったことで米国国債利回りが上昇し、ドイツの利回りも上昇しました。欧州中央銀行（ECB）関係者の利下げを巡る慎重な発言も、ドイツの利回りの上昇要因となりました。ECBは2024年6月の理事会で、4年9カ月ぶりの利下げを決定しました。

期の後半は、FOMCに向けて大幅な利下げ観測が高まり、米国国債利回りが低下したため、ドイツの利回りも低下しました。ただその後、米国雇用統計で米国の労働市場の底堅さが示され、米国国債利回りが上昇すると、ドイツの利回りも上昇しました。

米国10年国債の利回り推移



ドイツ10年国債の利回り推移



当期の米ドル・円相場は、前期末比ほぼ変わらずとなりました。

期の前半は、FRBの金融引き締めが長期化するとの観測が強まったことなどから米国国債利回りが上昇し、日米金利差の拡大に着目した米ドル買い・円売りの動きが強まりました。しかしその後は、FOMCを経て利上げサイクルの終了と2024年の利下げ開始への期待が高まり、米ドル安・円高が進みました。

期の半ばは、日銀が2024年3月の会合でマイナス金利の解除などを決定したものの、当面は緩和的な金融環境が続くとの見方が市場で拡大すると、米ドル高・円安が進展しました。さらに日銀は4月の会合で金融政策の現状維持を決定したため、米ドル高・円安の動きは一段と強まりました。

期の後半は、米ドル安・円高が急速に進む局面があり、市場では日本の政府・日銀が米ドル売り・円買いの為替介入を実施したとの観測が広がりました。その後も、9月のFOMCに向けて米国の利下げ開始期待が強まり、米ドル安・円高が進みました。9月のFOMCでは市場予想通り大幅な利下げが決定された一方、日銀は金融政策決定会合で政策を据え置き、利上げを急がない姿勢を示したため、日米の金融政策決定会合後は米ドル高・円安が優勢となりました。

当期のユーロ・円相場は、ユーロ高・円安となりました。

期の前半は、ECBと日銀の金融政策の方向性の違いが意識される中、ユーロ高・円安が先行しました。しかしその後は、ECBの利下げを巡る期待が高まったほか、植田日銀総裁の発言を受けて日銀が早期にマイナス金利政策の解除に踏み切るとの観測が強まり、円が対主要通貨で買われたため、ユーロ安・円高が進みました。

期の半ばは、日銀がマイナス金利の解除などを発表したものの、市場では既に織り込み済みとの見方が強かったため、実際に金融政策決定会合で修正案が発表された後は、ユーロが対円で上昇しました。その後も、日銀が金融政策の正常化を慎重に進めようとしているのではないかと見方が市場で強まったことなどから、ユーロ高・円安が優勢となりました。

期の後半は、FOMCに向けて大幅な利下げ観測が高まり、米ドルが対円で下落すると、ユーロも対円で下落しました。実際に大幅な利下げが決定されたFOMC後は、米ドルが対円で上昇するとともに、ユーロも対円で上昇しました。



当ファンドのポートフォリオ

（2023年10月11日～2024年10月9日）

当ファンドは、主に「ウエスタン・グローバル債券マザーファンド」受益証券への投資を通じて、主に日本を除く世界の公社債に実質的に投資を行うことにより、信託財産の中長期的成長を目指してまいりました。

当期は、米ドル建て、ユーロ建ての国債、社債等を中心とした組み入れを継続しました。ポートフォリオのデュレーションについては、市場の状況を睨みながら機動的に調整しました。通貨については、景気判断に基づく戦略を立て、機動的なポジション調整を行いました。

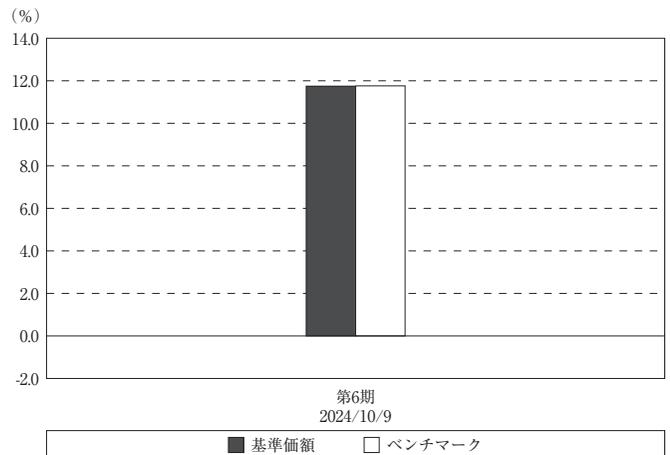
当ファンドのベンチマークとの差異

（2023年10月11日～2024年10月9日）

当期の当ファンドのパフォーマンスは、ベンチマークを若干下回りました。

欧米の国債利回りが低下するなか、デュレーション戦略において米国や欧州の中核国を長期化していたことがプラスとなりました。一方、通貨戦略における、一部の新興国通貨のポジションがマイナスとなりました。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

（注）ベンチマークは、ブルームバーグ・グローバル総合（日本円除く）インデックス（円換算ベース）です。

分配金

（2023年10月11日～2024年10月9日）

分配金につきましては、基準価額動向や保有債券の利子収入等を勘案し、以下の通りとさせていただきます。なお、収益分配に充当しなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり・税込み）

項 目	第6期
	2023年10月11日～ 2024年10月9日
当期分配金	－
（対基準価額比率）	－%
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	4,231

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

当ファンドは日本を除く世界の公社債を主要投資対象とし、ベンチマークを上回る収益を目指して運用を行います。今後も、市場環境を注視しながら、投資魅力度の高い銘柄を厳選し、ポートフォリオの構築を行う方針です。

お知らせ

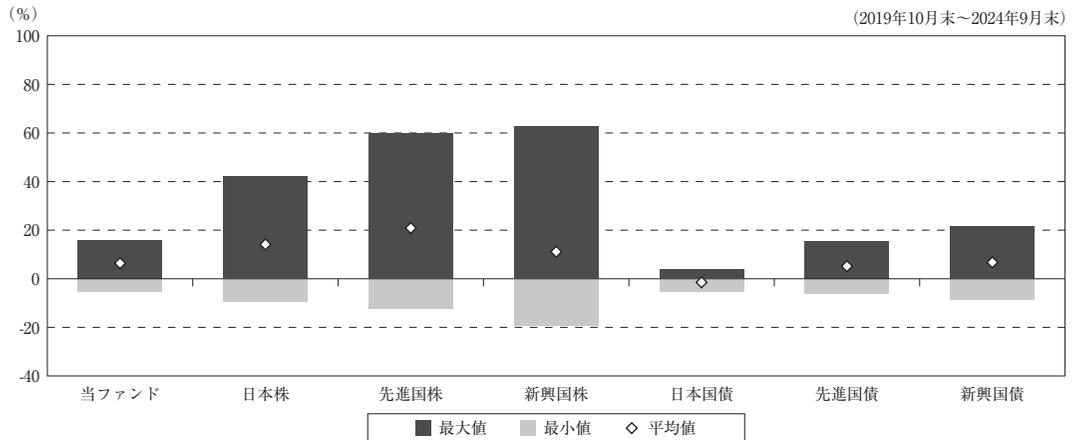
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2018年10月10日～2028年10月10日	
運用方針	主に日本を除く世界の公社債に実質的に投資を行うことにより、信託財産の中長期的成長を目指します。	
主要投資対象	当ファンド	「ウエスタン・グローバル債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	ウエスタン・グローバル債券マザーファンド	主に日本を除く世界の公社債を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド	ウエスタン・グローバル債券マザーファンド受益証券の組入比率は、原則として高位を維持します。 株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
	ウエスタン・グローバル債券マザーファンド	外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。 株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	決算時（毎年10月9日、休業日の場合は翌営業日）に、基準価額水準等を勘案して収益の分配を行います。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	15.8	42.1	59.8	62.7	3.7	15.3	21.5
最小値	△ 5.2	△ 9.5	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	6.4	14.1	20.9	11.1	△ 1.5	5.2	6.8

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2019年10月から2024年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(※) 各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

○当ファンドのベンチマークについて

ブルームバーグ・グローバル総合（日本円除く）インデックス（円換算ベース）は、ブルームバーグ・グローバル総合（日本円除く）インデックスを委託会社が独自に円換算したものです。「Bloomberg[®]」およびブルームバーグ・グローバル総合（日本円除く）インデックスは、Bloomberg Finance L.P.および、同インデックスの管理者である Bloomberg Index Services Limited（以下「BISL」）をはじめとする関連会社（以下、総称して「ブルームバーグ」）のサービスマークであり、フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社による特定の目的での使用のために使用許諾されています。ブルームバーグはフランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社とは提携しておらず、また、ウエスタン・グローバル債券ファンド（SMA専用）を承認、支持、レビュー、推奨するものではありません。ブルームバーグは、ウエスタン・グローバル債券ファンド（SMA専用）に関連するいかなるデータもしくは情報の適時性、正確性、または完全性についても保証しません。

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド（円ベース）

JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2024年10月9日現在)

○組入上位ファンド

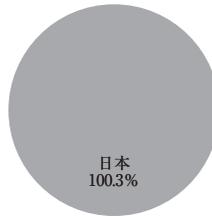
銘柄名	第6期末
ウエスタン・グローバル債券マザーファンド	100.3%
組入銘柄数	1銘柄

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

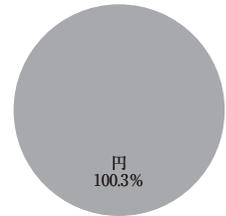
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

純資産等

項目	第6期末
	2024年10月9日
純資産総額	14,983,460円
受益権総口数	10,528,288口
1万口当たり基準価額	14,232円

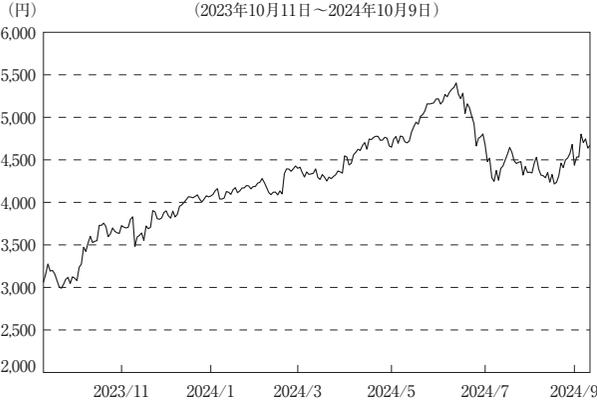
*期中における追加設定元本額は0円、同解約元本額は2,932,088円です。

組入上位ファンドの概要

ウエスタン・グローバル債券マザーファンド

【基準価額の推移】

【1万口当たりの費用明細】



(2023年10月11日～2024年10月9日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	1 (1)	0.009 (0.009)
(b) その他費用 (保管費用)	2 (2)	0.016 (0.016)
(その他1)	(0)	(0.000)
(その他2)	(0)	(0.000)
合計	3	0.025

期中の平均基準価額は、14,264円です。

(注) 上記項目の概要等詳細につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○現物資産上位10銘柄

(2024年10月9日現在)

	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	US TREASURY NOTE 0.375% 2026/1/31	国債証券	米ドル	アメリカ	7.4
2	WESTERN AST CHINA BND-LMUSDA	投資証券	米ドル	アイルランド	3.5
3	AUSTRALIAN GOVT 3.75% 2034/5/21	国債証券	米ドル	オーストラリア	2.7
4	US TREASURY NOTE 2.625% 2027/5/31	国債証券	米ドル	アメリカ	2.4
5	US TREASURY NOTE 0.75% 2026/4/30	国債証券	米ドル	アメリカ	2.3
6	TSY INFL IX N/B 2.125% 2029/4/15	国債証券	米ドル	アメリカ	2.3
7	DEUTSCHLAND INFL 0.5% 2030/4/15	国債証券	ユーロ	ドイツ	2.0
8	MEXICAN BONUS DESARR FIX 7.75% 2042/11/13	国債証券	メキシコペソ	メキシコ	1.9
9	SOUTH AFRICA GOVT 6.5% 2041/2/28	国債証券	南アフリカランド	南アフリカ	1.6
10	CHINA GOVERNMENT BOND 4% 2035/11/30	国債証券	中国元	中国	1.4
組入銘柄数			478銘柄		

(注) 比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

○スワップ及び先渡取引残高

(2024年10月9日現在)

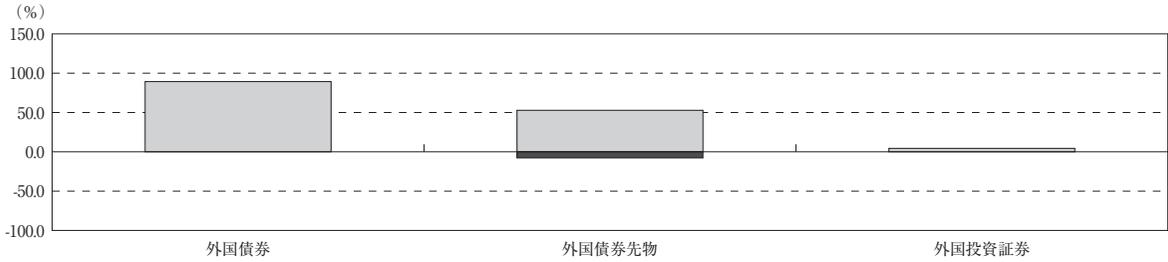
種類	取引契約残高	
	当期末想定元本額	
直物為替先渡取引	百万円 4,441	

○派生商品上位10銘柄

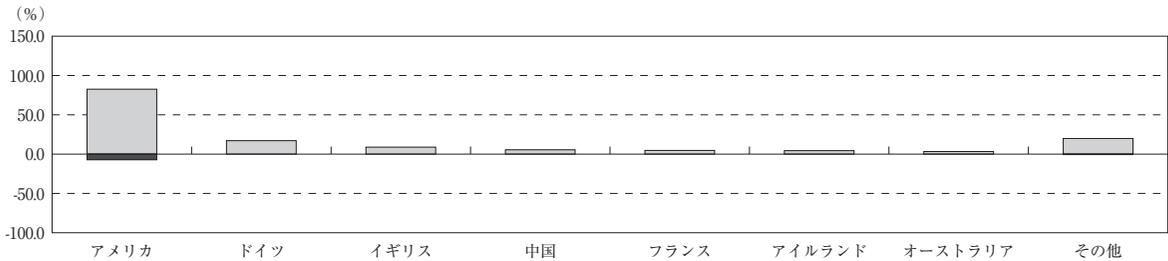
(2024年10月9日現在)

	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	米国国債(2年)2024.12限月	債券先物(買建)	米ドル	アメリカ	18.1
2	米国国債(5年)2024.12限月	債券先物(買建)	米ドル	アメリカ	14.6
3	ドイツ国債(5年)2024.12限月	債券先物(買建)	ユーロ	ドイツ	7.5
4	米国国債(10年)2024.12限月	債券先物(売建)	米ドル	アメリカ	6.2
5	ドイツ国債(10年)2024.12限月	債券先物(買建)	ユーロ	ドイツ	4.6
6	英国国債(10年)2024.12限月	債券先物(買建)	イギリスポンド	イギリス	4.3
7	フランス国債(10年)2024.12限月	債券先物(買建)	ユーロ	フランス	1.8
8	米国国債(10年)2024.12限月	債券先物(売建)	米ドル	アメリカ	1.0
9	イタリア国債(10年)2024.12限月	債券先物(売建)	ユーロ	イタリア	0.6
10	米国国債(20年)2024.12限月	債券先物(買建)	米ドル	アメリカ	0.5
組入銘柄数			14銘柄		

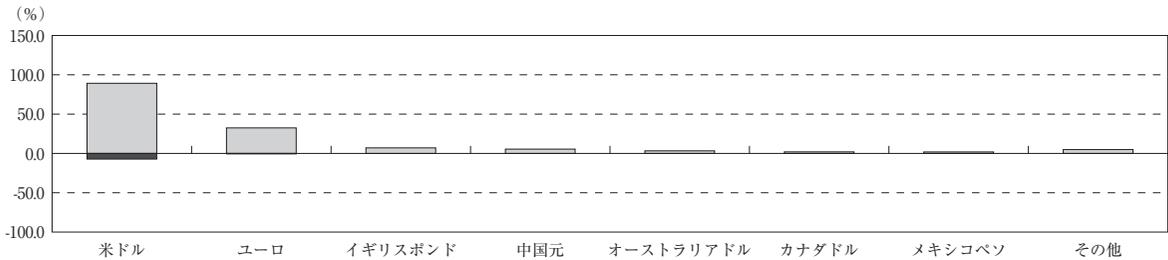
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 上記グラフについて、買建はプラス、売建はマイナスで表示しております。

(注) 比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。